

放射性廃棄物とどう向き合うか

原子力安全部会・バックエンド部会 意見交換会

1. 企画の背景と主旨

日本原子力学会の原子力安全部会とバックエンド部会とで、そもそも放射性廃棄物とどう向き合うのか、放射性廃棄物の取り扱いについての共感とは何か、また、放射性廃棄物に関する技術的内容や経緯についてあらためて掘り下げたいという意識を持つ専門性の異なるメンバーが、自主的活動の勉強会として2018年12月から対話を続けています。

この対話を通じて、放射性廃棄物の取り扱いについて意見が異なる部分や、消化不良な感覚（モヤモヤ感）の確認と原因の考察、それらを理解・共有した上で共感についてどのように考えていくのかなど、自分の知識や認識にとらわれないように留意しながら意見を交わしてきました。その結果、参加者を増やし、より多様な視点を持って対話を重ねていくべきではないかとの認識を持つに至り、このような意見交換会を企画しました。

今回の意見交換会は、大きく次の3つのステップを1セットとして、繰り返していくことを考えています。今回の意見交換会は、ステップ1にあたるものとなります。

ステップ1：意見を交換する上で前提となる出来事や事実の共有

ステップ2：前提を共有した上での意見交換・議論

ステップ3：実施した事・話した事の共有（原子力学会誌への発信を想定）

なお、今回の意見交換会では、今の時点で何が正しいと結論付けることはせず、互いの考えを理解する取り組み・プロセスが大切と考えています。このため、反対意見・少数意見・微妙に違った意見を大切にしながら、将来に向けた考え方の共有を目指したいと考えています。

また、意見交換にあたっては、次のことを留意するようになりたいと考えております。

- (1) ワンボイスは求めない
- (2) 互いの考えを理解しようとする（否定から入らない）
- (3) 会話を継続する

2. 日時（第1回）

11月10日（水） 13：00－15：00

3. 実施方法

開催方法：BE 部会と安全部会との共催

原子力学会 WebEX。参加費無料

※参加申込完了後、接続先のご連絡及び資料を送付いたします。

参加をご希望の方は、「参加者氏名、所属先」を明記の上、f-yamada@rwmc.or.jpまでご連絡ください。件名に「放射性廃棄物の取扱いに関する意見交換会」と記載して頂けると幸いです。

4. 実施内容

(1) 意見交換会の主旨と論点の提示

- 今回は、ステップ1
- 放射性廃棄物の取扱い、HLWで「地層処分」が選ばれた経緯、などアウトラインの共有
- 資料は4つ（議論への臨み方、アウトラインの共有、原子力安全部会論点、用語の選定の重要性）

(2) Q&A、意見交換

(3) 第2回（ステップ2）の実施方法について意見交換

5. プログラム

(1) 冒頭言	バックエンド部会 原子力安全部会	杉山部会長 山本部会長
(2) 資料の紹介（敬称略）		
◇ 議論への臨み方	バックエンド部会	杉山
◇ アウトラインの共有	バックエンド部会	小畑
◇ 原子力安全部会論点	原子力安全部会	中村
◇ 用語の選定の重要性	バックエンド部会	稲垣
(3) Q&A、意見交換		
(4) ステップ2の実施方法について		
	進行役	バックエンド部会 小畑

6. 留意事項

- (1) 秋の大会の BE 部会企画セッションの内容は、当日可能であれば画面のみで紹介
- (2) 「議論への臨み方」には、勉強会等を通じて感じてきたこと（下記事項）を反映
 - 各分野での用語の意味・選び方・使い方を知る
 - 考えの押しつけは NG
 - 他分野の専門家（放射性廃棄物の非専門家）を入れて話す
 - できれば納得感を越えて、各人が共感を持てることを目指す。ここで言う共感とは、統一見解という言葉から想起されるような硬さ、のないもの
 - すぐに「地層処分」の各論に入り込みがち。技術的には必要な議論であるものの、各論の理解で終わらないように、目指すところをできるだけ見失わないようにする